

感染症科

スタッフ紹介



診療部長
ぬくい ようこ
貫井 陽子
教授 (H11)
感染症内科学、
感染制御学、
薬剤耐性菌、
熱帯医学

診療副部長	ふるかわ けいたろう 古川 恵太郎	助教	(H22)	感染症学・微生物学
助 教	ささだ あおき 笹田 碧沙	助教	(H28)	感染症学・呼吸器感染症学
病院助教	ほしの ひろただ 星野 大雅	病院助教	(H19)	感染症学・微生物学
医 員	ながわ ゆうた 中川 裕太	医員	(H29)	感染症学・微生物学

私たちの業務

京都府立医科大学附属病院は京都府で唯一の第一種感染症指定医療機関であり、またエイズ治療拠点病院にも指定されています。これらを含む感染症診療の充実のため、2014年度より感染症科が開設されました。また2015年6月には、海外渡航される皆さまの健康をサポートするため「渡航ワクチン外来」を開始しました。私たちは、日々発信される感染症の最新情報をいち早く現場に取り入れ、最適な医療を提供できるよう心がけています。

■ **感染症外来**…当院感染症科外来では輸入感染症（マラリア、デング熱、渡航者下痢症など）やHIV/AIDS、梅毒
その他感染症全般の診療を行っています。

日本人の海外渡航者数はコロナ前までは急増しており、ポストコロナにおいても増加が見込まれています。海外で感染症にかかる事例も散見され、耐性菌感染症や熱帯感染症（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、マラリア、デング熱、寄生虫感染など）は大きな脅威となっています。これらを適切かつ迅速に診断することは感染症指定病院の責務と考えますが、当科では臨床検査部と連携をとり、各種迅速検査、培養検査、遺伝子検査等を駆使して早期診断に努めております。

また当院はエイズ治療拠点病院として、より充実したHIV・AIDS診療を実施するため基盤を整備しました。HIV感染症は未だに治る病気ではありませんが、昨今の治療薬の進歩により「HIV感染症＝死の病気」ではなくなり、慢性的な感染症として位置づけられるようになっていきます。したがってHIV/AIDS患者さんが長期に安心して療養できるよう、当院では専門の医師が、薬剤師・社会福祉士を含む多くの関係者と綿密に連絡をとり、病気のコントロールだけでなく社会的・精神的にもサポートを行っています。

■ **渡航ワクチン外来**…海外旅行・留学や海外赴任者のためのワクチン接種を行っています。当院では各種国産ワクチンのほか、海外製ワクチン（狂犬病ワクチン、A型肝炎ワクチン、麻しん・風しん・ムンプス混合ワクチン（MMR）、破傷風・ジフテリア・百日せき混合ワクチン（Tdap））も取り扱っており、幅広いニーズにお応えすることが可能です。

① 渡航者相談 ② 予防接種 ③ マラリア予防についてのアドバイス ④ 証明書の作成

■ **感染症科コンサルテーション**…各診療科に入院中の患者さんの感染症に関するコンサルテーションを受け、必要時には併診で診療にあたります。

府立医大 感染症科 連絡先 TEL 075-251-5652（感染制御・検査医学教室）
URL <https://www.kpum-rinken.com/kansenkensa>

渡航ワクチン外来 TEL 075-251-5134（予約直通）